

2018 - 19年度 RI テーマ



インスピレーションになるう

Rotary International
国際ロータリー会長
バリー・ラシン



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

新しく生まれ変わろう
ークラブネッサンス

第2660地区
八尾東ロータリークラブ
YAO EAST ROTARY CLUB
●創 立：1973年2月23日
●会 長：品川 芳洋
●幹 事：堀内 伸也
●会報委員長：高岡 正和

今週のプログラム

第2191回例会

- ① 開会 点鐘
- ② ソング 「奉仕の理想」
- ③ ビジターの紹介
- ④ 地区大会のPR

大阪南RC

地区大会実行委員会 広報・記録委員会

委員長 澤村 剛士様
副委員長 下井 謙政様
委員 横山 慶治様、大桑 貴明様
早瀬 祥人様

⑤ 会務報告

「会長の時間」「幹事報告」

⑥ 委員会報告

「出席報告」「各委員会」「ニコニコ報告」

⑦ 卓話

「どうする!!『所有者不明の土地・空き地』」

鈴木 洋会員

⑧ 閉会 点鐘

*8/25(土) 2018-2019年度

クラブ職業奉仕委員長会議

於：大阪科学技術センター 8階 中ホール

受付 9:30~ 開会 10:00~ 閉会 12:00

長尾 穰治職業奉仕委員長 出席予定

来週の予定

第2192回例会 8月31日(金)

☆卓話「会員増強について」

上田 郁生会員増強委員長

*9/1(土) 地区ロータリー財団セミナー

於：大阪 YMCA 会館 2F ホール

開会 14:00~17:00

品川会長、森下R財団委員長 出席予定

前週の例会記録

2018年8月10日(金)

出席報告

| 例会数 | 会員数 | 出席数 | 出席率 | 備考 |
|--------|-----|-----|-------|------------------|
| 第2190回 | 27名 | 13名 | 61.9% | 出席義務免除 7名(出1) |
| 第2188回 | 27名 | 18名 | 81.8% | 補 填 0名 |

ニコニコ箱

●本日PRさせていただきます。

東大阪みどりRC 会長 竹内 剛靖様

副実行委員長 井上 善博様

●桑田さん、卓話楽しみにしています。

皆さん、Bonnes Vacances, よき夏休みを!

品川 芳洋会員

●東大阪みどりRC 竹内会長、井上副実行委員長、

ご訪問ありがとうございます。 石川 義一会員

★例会場：八尾市生涯学習センター<かがやき> 〒581-0833 大阪府八尾市旭ヶ丘5-85-16 TEL:072(924)3876

★例会日時：毎週金曜日13時30分

★事務所：〒581-0803 大阪府八尾市光町2丁目60番 LINOAS(リノアス)8階 TEL:072(997)0626 Fax:072(997)2620

★http://www.yaohigashi.org/ E-mail:yaohigashi@japan.email.ne.jp

●毎日暑い日が続いています。体調には呉々もお気を付け下さい!!

本日の卓話よろしくお願い致します。

桑田 タア子会員

●東大阪みどりRC 竹内様、井上様、ご来訪ご苦労様です。

桑田さん、卓話楽しみです。頑張ってください!!

奥田 長二会員

●施設の盆おどりも無事に終わりました。

桑田さん、卓話たのしみです。 大橋 秀造会員

●①竹内様、井上様、ようこそ!

②ロータリーの友編集長の見識に感謝。

③桑田さん、卓話よろしく! 鈴木 洋会員

●東大阪みどりRC 竹内様、井上様、ご訪問ありがとうございます。

8月7日、娘じゃなく、孫が無事生まれました。

長尾 穰治会員

●今回合計 15,000円



東大阪みどりRC様

●累計 184,000円

会長の時間

8月という月は終戦をはじめ日本の運命を左右するとても大きな出来事が時間刻みで起こった時もありました。

8月9日の朝11時に皇居地下で戦略参謀会議が始まった直後の11時2分に原子爆弾が長崎の地に投下されました。原爆投下の情報が伝えられ会議は紛糾し、連合軍から突き付けられていたポツダム宣言を受諾するか云々が深夜に及び、結果、翌10日未明にやっと受諾するとの聖断が下りました。今朝のことです。その日、日ソ中立条約を一方的に破って、ソ連は日本が統治していた北満州へ侵攻、後に何万という抑留者、引き揚げ者、孤児を生むことになりました。ドイツ敗北後、戦後処理に米、英、ソ連首脳がベル

リンに会した際、7月17日に“Babies satisfactorily born<赤ちゃんが無事生まれました!”という短いメッセージがトルーマン大統領に届けられました。アメリカ・マンハッタン計画で進められていた原子爆弾の実験が成功したという知らせでした。その情報を7月24日に知ったスターリンは、もうソ連の力なくしても日本は間もなく降伏すると察し、戦勝国側について終戦処理に乗り遅れまいと、日本との約束を一方的に破棄して侵攻して来たのでした。

8月10日のポツダム宣言受諾の聖断、そして15日の終戦を国民に告げた玉音放送に至る迄のほんの短い間に日本の運命が定まる歴史的出来事が次々と起こっていたと言えましょう。

1945年8月6日 原爆投下 広島市

8月9日 原爆投下 長崎市

午前11時から皇居の地下室

最高戦争指導会議ポツダム宣言の

扱いに火花 原爆投下の一報

深夜から未明の御前会議で聖断

宣言受諾決定

8月10日 ソ連が満州侵攻

対日参戦→抑留、引き揚げ、孤児の悲劇

8月15日

幹事報告

【配布物】

①週報

②ロータリーの友

【回覧】

①秋のライラ案内

②ROTARY SHOP 案内

③7月西日本豪雨義捐金箱

【連絡】

①8/17(金)休会

以上

卓話

「人生を変える 感動の言葉」

桑田 タア子会員



私は八人兄弟姉妹の四番目で、中の六名が二歳ずつ違いの姉妹です。女三人寄れば姦しいと言いますが、毎日他愛ないことで口喧嘩、絶えまない騒々しさの中、母は家事仕事の手を止める事もなく、大きな声で叱ることもせず、私たちの言い争いを笑いながらジッと聞いていました。お互いに自分の正当性を主張し、母を味方につけようと必死に母の助けを求めますが、そんな時の母は、どちらにも言い分はあると思うけれど喧嘩は両成敗「負けるが勝ち」「負けるが勝ち」と言って、姉妹は仲良く助け合って行くよう諭してくれました。

母は物静かな人で、争いごとの嫌いな人で、話が好きで、私はそんな母を独り占めしたくて母の後ろを追っかけ、どこにでもついて行き、姉たちによく引っ付き虫と言われました。

学校の話や友達の噂話、陰口など聞いてほしくて、いっきに喋り続けます。そんなとき母は頷きながら「そうか、そうか」と相槌をしながら聞いてくれますが、話に熱中すると、母はこんな言葉があるよ「人の振り見て我が振り直せ」自分を振り返って見ることも大切なんよ、母の諭の言葉の中には、例え話や、諺、格言など多くあり、今も事あるごとに思い出し反省することも多々あります。

誰でも知っている格言でよく使われる言葉ですが「見ざる、聞かざる、言わざる」「見目より心」「目は心の鏡」「人は見かけによらぬもの」「物言えば唇寒し秋の風」「言うは易し行うは難し」その時々母から教わる、例え話や、諺、格言など、今の私の基本になっているのかと思うのです。

生涯の伴侶として座右に置きたい本の中には、沢山の諺、故事、金言があり、私たちの先祖が育ん

できたその中に豊かな生活の知恵が詰まっています。

言葉の使い方、会話が弾み楽しくなります。親しさ、優しさ、思いやり、相手の気持ちになる、どんどん会話が進めば楽しいものになると思います。

私の故郷、四国に坂村真民さんという詩人がいました。

真民さんは子供の頃に大黒柱の父親を亡くし、苦勞に苦勞を重ねながら自分を育ててくれた母親の姿が生きる原点になったと言う人です。

「念ずれば花ひらく」「念ずれば花ひらく」

口癖のように唱えるように言っていた母親の言葉に詩を付けたものです。

念ずれば花ひらく 「苦しいとき 母がいつも口にしていた このことば わたしもいつのころからか となえるようになった そうしてそのたび わたしの花がふしぎと ひとつひとつ ひらいていった」

「念ずれば花ひらく」この詩は、日頃真民さんの詩を愛読し、子供に読み聞かせていた、ある親子が将来の希望を失い、子供を道連れに死のうとしたその時、そのフレーズを子供が覚えていて「念ずれば花ひらく」と独り言のように呟いたそうです。母親は、ハッと我にかえり死ぬ事を思いとどまったというのです。

この親子以外にも多くの方がこの詩に救われていることと思います。「念ずれば花ひらく」この言葉を刻んだ碑や詩碑が全国に多く建立されています。苦しみの扉を開くのは、他人に開いてもらうのではなく自分で開こうとする意志がなければなりません。

真民さん 40歳の頃、大病を患い死の淵を彷徨っていた頃、過酷な自分の運命に負けることなく詩や歌を作り、救いを宗教に求めたのです。

【死のうと思う日は無いが、生きていく力が無くなる事がある、そんなとき大乘寺を訪ね、私は一人、仏陀の前に座ってくる、力が湧き明日を思う心が出てくるまで座ってくる】

大乘寺は四圍でただ一つの臨濟宗の専門道場であ

り、静かな、よく掃除の行き届いたお寺で今の世にはまれな清閑な禅寺です。

「かなしきうた」はここでうまれました。真民さんは、弱い自分を強い人間に鍛え上げるために、詩に生きようとしたのです。心も身体も弱々しくなった命の糸をつなごうとする切なる思いが込められているこの詩も又、多くの人の生きる支えとなっています。曹洞宗の方が、十一面観音のお絵像とこの詩で作ったポスターを全国の寺院に配布しました。その一枚が、死を覚悟してお寺にお別れの挨拶に来たお婆さんの心に、生きる力を与え死のうという考えを改め、ポスターの下で「死んではならん、生きていなければならん」と思い直して、じっと座り込んで居るところを見つけられ、北海道でこの詩がお婆さんの命を救ったと記事になり、その顛末が新聞に報じられ全国的に知られたのです。これにより十代の多くの若者にも「かなしきのうた」は共感を呼び支持されています。

海外にも、大変有名な人で若かりしとき、絶望の中から見事に希望を見出した人がいます。アンドリュ・カーネギーはアメリカの鉄鋼王と言われた人です。

この成功者にも苦難の時はあったのです。彼も若い頃は何をしても巧くいかず、ほとんど困り疲れ果てて、いよいよ人生に見切りをつけるため、首を括って死のうとしたその時、窓の外に“ICAN”という文字が目にとまり、ICAN「私はできる」そのとき、カーネギーは思ったのです。「はたしてこれで私は最善を全うしてきたのだろうか、もしかしたらまだ私はできるかもしれない」と自分自身に ICAN・ICAN といひ続け、ついには鉄鋼王と言われるまでになったのです。

つまり大事なものは、自分の可能性に気付くこと、克服することのできない困難などない。誰の心の中にもある前向きに進もうとするプラスの力を一度知ったら、もう恐れるものはない。苦難を乗り越えた人が強いのです。

私たちも「念ずれば花ひらく」ICAN・ICAN と前向きに進みましょう。



第2660地区
八尾東ロータリークラブ
YAO EAST ROTARY